

平成 29 年 4 月

関係者各位

学校法人アイピーシー学園
愛知ペット専門学校
理事長学校長 牧 良

学校関係者評価報告書の公表について

このことにつきまして、平成 29 年 3 月 23 日に開催いたしました「学校関係者評価委員会」の報告書を別添の通りまとめました。ここに、「平成 28 年度自己評価及び学校関係者評価報告書」を公表いたします。今後は、学校関係者評価委員各位のご意見やご指導を真摯に受け止め、より良い教育活動、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力してまいります。

今後とも、より一層のご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年度
「自己評価及び学校関係者評価報告書」

《開催日：平成 29 年 3 月 23 日》

学校法人 IPC学園

愛知ペット専門学校

1. 学校関係者評価委員会名簿

氏名	所属
牧 良	愛知ペット専門学校 学校長
岩本 英司	株式会社アイピーシー 営業部部長
伊藤 麻希	株式会社アイピーシー 名古屋事業部ペットサロン店長
中島 美沙紀	株式会社アイピーシー わんわん動物園主任
宇野 哲安	有限会社宇野獣医科 院長
大槻 祐介	株式会社アイピーシー 事業管理部次長
栗田 晶子	愛知ペット専門学校 教務主任兼ドッグトレーナー科科長
細川 綾子	愛知ペット専門学校 ペットトリマー科科長
芳賀 美咲	愛知ペット専門学校 動物看護科科長
北風 孝広	愛知ペット専門学校 教務主任補佐兼ペットアドバイザー科科長

2. 学校関係者評価委員会開催記録（概要）

【日時】 平成 29 年 3 月 23 日（木） 15:00～16:00

【場所】 株式会社アイピーシー管理本部 2 階総合会議室

【出席者】

委員 8 名、事務局 1 名

牧委員、岩本委員、宇野委員、大槻委員、細川委員、栗田委員、芳賀委員、北風委員、平松

【議題（決定事項）】

1) 平成 28 年度愛知ペット専門学校自己評価報告案について

【会議資料】

資料 1 平成 28 年度 愛知ペット専門学校 自己評価報告案

【会議内容】

<開会の宣言>

（司会進行：北風委員）進行の挨拶、出席者の確認。参照資料の案内の後、開会を宣言。

<議事録・議事の概要>

（司会進行：北風委員）審議開始を宣言、発言の前にお名前を頂く旨を説明した。

<第 1 号議案の説明と審議>

（牧学校長）牧学校長より資料 1 の自己評価報告案について説明。

- 1) 教育理念・目標
- 2) 学校運営
- 3) 教育活動
- 4) 学修成果
- 5) 学生支援

- 6) 教育環境
- 7) 学生の受け入れ募集
- 8) 財務
- 9) 法令等の遵守
- 10) 社会貢献・地域貢献

上記項目の説明、自己評価に基づき、重点課題及び改善方策案について説明した。

(牧学校長) 委員各位よりご指導ご意見を伺い、また質疑応答で異議なしとのことから、本報告案を報告することで決議した。

(司会進行：北風委員) 閉会を宣言。

3. 評価項目の自己評価結果、課題及び改善方策

(1) 教育理念・目標		評価
1	理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が生徒・保護者等に周知されているか	3
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

「社会に貢献しうる有能な人材としてペットの専門家を育成することを目的とする。」という本校の教育目標に対し、各科の専門特性を基盤とした学科目標を明確にし、学生への周知、保護者に向けた情報発信に努めている。特に、各科学生に対し取得を目標とするライセンス・資格・検定等は、職業教育の中核と成すことをまず教職員が理解し、学生あるいは保護者様へと十分に説明が成されるよう配慮すべきである。時代の流れとともに変化するニーズに対して敏感にアンテナを張り、遅れやずれが生じないよう、情報収集及び情報発信等を継続的に行い、またその内容が迅速に教育に反映できるようにさらなる努力を継続する。

【学校関係者評価委員意見等】

職業実践専門課程の趣旨を学生個々に浸透させるよう、カリキュラムの中だけに限るのではなく、例えば学生の内定先に合致した他学科の授業を聴講できる等、広く学べる環境づくりを目指してほしい。

【特記事項】

なし

(2) 学校運営		評価
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4

2	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事・給与に関する制度は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
6	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

学校組織における権限や役割については整備がなされつつある。組織内でのコミュニケーションを密にし、業務上の無駄を省き、改善を繰り返すことを課題として学校運営の円滑化を進めている。本年度は理事長校長直轄の定例会を毎週火曜日に実施し、各学科長及び広報部主事をメンバーとして、学科・学年における授業運営や学生対応等の教育に関わる運用、また SNS による学校 PR 活動や体験入学の実施等の学生募集に関わる運用について連携を図っている。また、教育活動に関する情報は学科別に作成した「入学案内」等で学生・保護者様、あるいは関係企業様等に周知するとともに、職業実践専門課程の認定要件である公開が義務付けられている情報を本校ホームページに掲載して広く公表している。

【学校関係者評価委員意見等】

引き続き学校運営の円滑化を図ってほしい。

【特記事項】

なし

(3) 教育活動		評価
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定に基準は明確になっているか	4
10	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4

11	人材育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
14	教員の能力開発のための研修等が行われているか	3

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

教育理念、業界のニーズを踏まえた育成人材像として“社会人マナーを備え、即戦力で活躍できる人材の育成”を掲げている。当校の教育課程編成委員会等を活用して関係企業様から“育成人材像”をヒアリングし、教育理念と照らし合わせながら、よりの確にカリキュラム等へ反映できるよう努めている。各科目標とするライセンス・資格・検定等を在籍期間の2年間で受験・取得していくプログラムの作成や、職業教育の一環として、全学科実稼動する店舗・動物病院等業界関係施設での実地実習の実施を強化・継続し、積極的にカリキュラムの改善及び指導要綱の改善に反映させている。29年度はより実践的かつ人材育成に反映した授業・実習プログラムにすべく、全教員の能力開発等のための研修を取り入れる等、努力を継続する。

【学校関係者評価委員意見等】

改善方策にもあるように、現状に甘んじることなく常に改善を図っていく努力を継続してほしい。

【特記事項】

なし

(4) 学修成果		評価
1	就職率の向上は図られているか	4
2	資格取得率の向上は図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

就職率や資格取得率の向上、あるいは卒業後のキャリア形成に向けた意識を向上させるひとつの手段として、適切な目標設定をし、努力・達成させ、評価し、又新たなる目標を与える方法があるが、そのサイクルを各学生のレベルに合わせて設定・指導し、適切な評価を与えることを強化している。資格取得については昨年度より導入した日本動物専門学校協会（NAVA）認定ライセンスの受験・取得率の維持向上に努めつつ、各科指導計画に基づいた各種資格の取得率向上のためのプログラムを策定していく努力を継続する。また、退学率については本校の重点課題として挙げ、低減に向けた努力を継続する。

【学校関係者評価委員意見等】

退学の理由には学生個々の事情等を勘案することはもちろんだが、直接相談に乗る教職員の指導をより強化する必要があるのではないかと。例えばカウンセリング等の研修を要するのかもしれない。

【特記事項】

なし

(5) 学生支援		評価
1	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
2	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
3	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
4	学生の生活環境への支援は行われているか	4
5	保護者と適切に連携しているか	3
6	卒業生への支援体制はあるか	3
7	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
8	企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

企業との連携によるキャリア教育・職業教育の取組は職業実践専門課程の企業等との連携等により概ね成されていると評価できる。また、昨年度は教育訓練給付金制度による専門実践教育訓練の全科指定を目標に掲げていたが、本年度新たに3学科が指定を受けた。これで全学科が指定を受けることとなり、経済的に支援できるような体制を整えていく。

【学校関係者評価委員意見等】

【特記事項】

なし

(6) 教育環境		評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	3

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

より多く、広い視野・見聞で学習ができるよう設備・施設の充実を随時行い、新たなインターンシップ・海外研修先の開拓も行っていきたい。防災に対する体制整備として、学校所在地における防災マッ

プの掲示、災害発生時の初期対応、2次対応について教職員・在校生を含めて情報共有を図っている。本年度は9月1日の防災の日に通常の避難訓練に加え、施設で飼養・保管している全生体の安否確認及び一時避難を想定した訓練を実施した。今後も引き続き、文科省、環境省あるいは岡崎市のガイドラインやマニュアルを参考にして学校防災の意識向上に努める。

【学校関係者評価委員意見等】

((10) の社会貢献・地域貢献での意見等へ集約)

【特記事項】

なし

(7) 学生の受け入れ募集		評価
1	学生募集活動は適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

本校の魅力・教育目標等をさらに広く伝え、理解を得るために、パンフレットや募集要項、WEB 媒体等の刷新を試みている。学生募集に携わる職員はもちろん、教職員が一丸となって提供する情報を共有し、特に体験入学会では、募集活動におけるスキルアップのための研修を行い、万全な準備を整備して募集活動を実施している。特に、各科の教育成果や教育目標等については、全教職員が入学を検討している学生や保護者様に具体的に伝えられるような努力が継続して必要である。

【学校関係者評価委員意見等】

引き続き、万全な準備を期待します。

【特記事項】

なし

(8) 財務		評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

学校の予算・収支計画は有効かつ妥当であり財務基盤も安定して問題がない。今後も継続して適正に実施していくが、施設・設備の充実のために財政基盤をより盤石にしていけるよう努力する。

【学校関係者評価委員意見等】

健全な財務基盤であると思う。できる限りの施設・設備の充実を期待する。

【特記事項】

なし

(9) 法令等の遵守		評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	3
4	自己評価結果を公開しているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

法令、専修学校設置基準等については常に最新の注意を払って適正に運営している。職業実践専門課程の運営において、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインの項目とその対応（財産目録・貸借対照表・収支計算書・事業報告書・監査報告書）、学校関係者評価報告書や各学科の職業実践専門課程の基本情報について学校ホームページ上で広く公開している。個人情報に関しては、情報が書かれたメモ等は受け渡しノートに添付する、FAX 送信時は転写されないよう目隠しをする、パソコン等で個人情報を扱う場合は所定の機材を使用することや記憶媒体への接続を制限する等、引き続き第三者の閲覧を予防するために工夫・徹底に努めている。また、教育活動においては学生の研究活動における著作権法や動物愛護管理法の遵守について授業で取り上げる等周知に努めている。

【学校関係者評価委員意見等】

個人情報保護に関し、一層厳しい管理体制を整備する必要がある。教職員の教育を含め、再度周知徹底を図ってほしい。

【特記事項】

なし

(10) 社会貢献・地域貢献		評価
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座・教育訓練（職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

評価：適切 4、ほぼ適切 3、やや不適切 2、不適切 1

【自己評価結果・課題及び改善方策】

本年度は“地域清掃”と称する活動を強化して社会貢献・地域貢献を行っている。学校施設周囲の道路・歩道のゴミ収集・路面清掃、関係施設周辺では岡崎市と連携した“イエローカード作戦”を通じた路上排泄犬糞の放置を防止するための活動を実施している。また、ドッグトレーナー科では本年も引き続き

学科の特性や専門性を活かし、岡崎盲学校へのボランティア活動を実施した。今後は、学生生徒自ら提案したボランティア活動等の支援体制の整備や公開講座の開催・受託等を積極的に進めていく。

【学校関係者評価委員意見等】

(大槻委員)

各種コンテスト・資格取得の結果として、学生自身の意識に変化が見られたのだろうか。いずれにしても学校教育の中でそういった環境づくりを行い、学級を盛り上げることで協調性や競争意識を持たせることにも繋がると考える。

(宇野委員)

資格取得を目標設定とすることは勉強させるきっかけになることには賛成。だが、受験させることに意義を見出し、学科をまたいで受験させるなど、臨機応変にキャリアを積める環境設定・土台を用意してはどうだろうか。就職してからはその“店”のカラーに染まりやすい人が優遇される現状がある中、意欲的に店主等に反論・批評できる人材育成、適応力を育むことが重要と考える。また、犬を通じた人の福祉も教育内容として重視されるだろうから、カリキュラム構築の参考としてほしい。

(伊藤委員)

他校との交流をもてる場を提供することはいいことだと思う。トリミングコンテストに出場することと就職後の実務スキル、この両面での目標設定・目的意識の持たせ方重要になると思う。

【特記事項】

なし

以上